

第2回青葉山エリア文化観光交流ビジョン検討懇話会について

1 概要

(1) 日時・場所 令和4年11月8日(火) 17時~19時

仙台市役所本庁舎2階 第一委員会室

(2) 議事 「(仮称)青葉山エリア文化観光交流ビジョン」策定について

- ・ビジョンの構成、今後の検討
- ・エリアの特性と強み、課題
- ・エリアのコンセプト、目指す将来像
- ・将来像実現に向けた取り組みの方向性、回遊性の向上に向けて 他

2 主な委員意見

【全般に関すること】

- ・「青葉山エリア」という名称があまり認識されていないのではないか。今後そうした名称が認識されることが重要。
- ・将来の取り組みを考える上で、天然記念物青葉山や史跡の存在が前提条件になることを整理しておくことが必要。
- ・政宗公の時代と現在の間にある戦災など、エリアの歴史の変遷を、自然や学術、文化などを通じて見せると、それが今の豊かさにどう繋がり、どう手を入れたりしようとしているのかが分かりやすくなるのではないか。

【コンセプト、将来像に関すること】

- ・自然や歴史などそもそものエリアの価値として、政宗公のまちづくりへの思いや城下町づくりがある。こうしたことを踏まえた上で、エリアの強みや特性がある。これらの価値を伝えなければ、市民や来訪者に、このエリアは素晴らしく、訪れる価値があるという共感が及ばない。
- ・市民が、自然を大切に、歴史を守っていくという思いのもとで多様な過ごし方、楽しみ方ができるエリアだと思う。「多様な」の表現のベースとなるものを、コンセプトに入れるとよいのではないか。
- ・仙台が「都心」と「青葉山エリア」との双子のような構造になっているということは、コンセプトとして重要ではないか。
- ・自然を壊さずに守り続けながらも、エリアに親しみを持ったり、使えるようにしようということが、コンセプトなのではないか。
- ・MICEや音楽ホールに外から訪れた方がその地に魅力を見出すということがある。市民と外からの来訪者がともに作り上げる、育てていくことができるエリアになればいい。